

報 告

第37回日韓技術士会議報告

A Report on 37th Japan-Korea Professional Engineer Conference in Seoul

本年は、例年より1ヵ月程早く首都ソウルでの開催となった。韓国では長年この会議のために尽くされた、李康鎬（前委員長）、全相伯（前監事、元副会長）両氏が委員会の顧問となり世代交代があった。新委員長は、知日派の朴慶夫（現技術士会副会長、韓国防災協会会長）が就任した。韓国の委員会の構成は顧問6名、委員長、副委員長6名、委員16名と大幅に増員された。

このたびの日韓技術士会議は成功裏に閉幕できたが、この道のりは昭和46年の第1回ソウルでの会議（参加者 日本18名、韓国36名）ではじまり、第22回平成4年、新潟市での開催から（参加者 日本70名、韓国11名）地方都市開催となった。その後、両国の地方都市を巡り、直近の昨年は那覇市で開催した。

韓国は地政学的には日本と巨大中国の間にあり国政の将来を安定的に繁栄させるための舵取りには熟慮している。そんな中で、会議開催中に韓国と北朝鮮のトップ会談が平壤で行われていた。

両国の間には最も近い隣国として共通する問題が存在する。両国とも天然資源に恵まれないが「科学技術創造立国」を目指している。技術者の社会的な役割の認識や通商面での自由な競争FTA、EPA条約の進展など韓国では高いダイナミズムが見え、この会議の一連のプログラムを通して実感できた。このたびの会議とは別に、以前から課題となっていた両国の女性技術士の交流会が催されたことは、今後の日韓技術士会議の新たな成果として期待される。



写真1 本会議

【会議概要】

全日程：2007年9月30日（日）～10月2日（火）

参加者：日本（技術士、同伴者、事務局）91名

韓国側（技術士、同伴者、事務局）181名

■第1日目 9月30日（日）午後

- ① 第3回日韓青年技術士親善サッカー大会 参加者：80余名 競技の結果、4：0 地元韓国が勝利。敢闘賞は前青年技術士68歳の富田武彦（経営工学）に贈られた。次回は日本の奮起が望まれる。試合後は親善懇親会がセットされ大いに盛り上がった。
- ② 新しい交流活動として両国女性技術士有志による「女性技術士競争力強化シンポジウム開催」

■第2日目 10月1日（月）終日（詳細は技術士会ホームページに掲載）

1. 本会議 会場 ソウルオリンピックパークテル 午前（9：00～12：00）

式典 全員参加 (同時通訳)	両国会長挨拶 李庭満（土木施工）、高橋 修（建設、総合技術監理）
基調報告	委員長報告 韓国 朴慶夫（道路及び空港、土木施工）、日本 中山輝也（応用理学）
基調講演 (共通して学 びの時間 同時通訳)	「漢江 ルネッサンス プロジェクト マスタープラン」李悌源（ソウル市漢江事業企画団 戦力企画部長） 「東ASIAの人類の幸せのために、環境保全と日韓技術士の役割」青葉 堯（化学）高堂彰二（上下水道、総合技術監理）、フロアーから発言者 韓国の講演に対して稲垣正晴（応用理学、総合技術監理）、日本の講演に対して許南（非破壊検査、放射線管理）他

基調講演の主題については包括的な視野から、東アジアの安定的な平和と友好親善、双方の国民の発展に関係する未来志向型の課題を採り上げる様になっている。

このたびの共通テーマは「東アジアの人類の幸せのために、環境保全と両国技術士の役割」であった。韓国側は「漢江ルネッサンスプロジェクトのマスタープラン」と題し、技術士ではなかったが担当部署の役人が具体的な構想を中心に話され、説明も丁寧で解りやすかった。

日本側も解りやすく説明し好評を博したが、もう少しビジュアルなマンガや絵などを使っただけの方が良いとの意見もあった。

2. 午後（13：30～17：30）分科会（逐次通訳）

第1分科会「観光、環境、資源、エネルギー」	
「市街地 景観計画と特化街路造成事業 一仁川 中区 事例地区」	柳忠鉉 (都市計画)
「釜山港 ウォーターフロント 計画」	李康建 (都市計画)
「洪 魚」	金又俊 (水産製造)
「海藻類 養殖 産業の現況と展望」	李昌男 (水産製造)
「非鉄金属資源の開発ー銅鉱のヒープリーチング法の進展」	今井哲男 (資源工学)
「構造改革特区と地域観光」	藤井三千勇 (建設)
「地球温暖化の危機を救う自然エネルギーの活用」	市村一志 (建設)
第2分科会「建設、安全、防災」	
「集中豪雨による江原地域の被害現況及びその特性と工法研究」	
	李承浩 (土質及び基礎)
「大規模切土斜面の安全性検討 工法と事例研究」	金学清 (土質及び基礎)
「路面凹凸舗装 交通事故減少効果」	呉興雲 (道路及び空港)
「清溪川 復元事業」	朴吉東 (土木施工)
「ITを利用した道路・宅地の土砂災害の減災技術」	藤井俊逸 (建設)
「日本の建築物の安全性の担保」	宮原 宏 (建設)
第3分科会「技術と倫理、技術者資格」	
「韓国・米国FTA協定締結 両国技術士相互認定の推進計画の課題」	
	金慶植 (発送配電)
「景観法の理解と技術士の役割」	劉完鐘 (都市計画)
「技術者そして倫理の心」	橋本義平 (情報工学)
「環境にかかわる技術者資格の責任」	
	青葉 堯 (化学), 高堂彰二 (上下水道/総合技術監理)
第4分科会「電気電子、通信、情報処理、機械」	
「空港鉄道 Project」	韓成徳 (産業計測制御)
「韓・日/日韓技術士の交流の活性化における効率的なInternet活用方案」	文幸奎 (情報通信)
「SW(ソフトウェア) 産業の発展と法制化」	金延洪 (電子計算組織応用)
「At the age of ITC developing stage」	田吹隆明 (情報工学)
「Secret of strong Japanese small machine makers」	森田裕之 (機械)
第5分科会(青年委員会)「自由課題 英語発表」	
「Shape memory thin film of Ti-Ni fabricated by Electron beam evaporation」	
	魯海龍 (金属材料)
「Dynamic Move Toward the World」	全相伯 (建築構造・建築施工)
「Turbocharger Technologies for Future Diesel Applications」	Jeff Han (車両)
「21世紀、将来の重点成長分野におけるプラスチックの可能性と技術戦略」	長谷川正 (化学)
「Global warming and energy revolution」	
	稲垣正晴 (応用理学/総合技術監理)
「地域から国内、そして世界標準に」ー名古屋圏における産業技術の持続可能な発展ー」	澤 誠治 (化学)

- * ポスターセッション 発表以外の小論、報告、コラム等を1枚で表示発表、日本11、韓国3点
- * レディースコース 大長今テーマパーク (TVドラマチャングムの誓い)、東大門市場近隣散策
- * 友好親善晩餐会 (18:30 ~ 21:00) 参加者全員+客人韓国技術士会よりこれまでの会議での発表、友好親善の功に対して岡崎孝雄 (資源工学)、玉井丈夫 (農業)、市村一志 (建設) に感謝牌が贈られた。この会議に関係された、歴代の韓国技術士会の会長や縁の長いシニア技術士との懐かしい再会が多々あった。民族楽器を奏でる若い女性芸術家の伝統音楽演奏とパンソリの熱演が晩餐会の雰囲気盛り上げた。最後は韓国御婦人方の合唱、日韓の歌、韓国の国民歌「サランヘ」を皆で歌い締め括られた。次回第38回の開催地新潟の紹介は中山輝也委員長始め北陸から出席の人達、それに日本側委員の大部分が助っ人に加わり、堀田亨 (応用理学) の篠笛の音を加えての招請の呼びかけがあり、出席者全員で来年の再会を誓った。



写真2 晩餐会



写真3 分科会

■産業・観光視察 10月2日 終日

アジアゲートウェイ ハブ仁川空港に繋がる仁川生産基地の見学、①永宋地区物流拠点、②松島地区ビジネスの拠点、③チョラン地区国際業務機能、住居、レジャー施設拠点、米国のGales社と韓国のポスコが合作会社NSCを立ち上げ、民間主導の投資の下に大プロジェクトが2013年度完成を目指し進行中である。韓国ガスのLNGターミナル、仁川大橋 (斜張橋とその他、日本の(株)長大とオリエンタル建設が技術協力) 干満の差13m余の黄海上を船に乗り建設現場見学、予定になかったが、松島新都市広報館見学、仁川経済自由区域、I,F,E,Z,これらの全貌を模型で展示する会場を案内された。韓国の21世紀は地の利を活かして世界から投資を呼び込み仁川の奇跡が生まれようとしている。最後はソウル中心部の清溪川文化館を見学、早朝より日暮れまで充実した研修会であった。仕上げは韓国料理「蔘鶏湯」で秋の味覚を堪能した。アンニョン

宮原 宏 (みやはら ひろし)
技術士 (建設部門)

M.C.Eミヤハラコンサルティングエンジニアーズ 主宰技術士
e-mail : h.miyahara@mx8.ttcn.ne.jp
(Miyahara Hiroshi)

